

## 松井真理子議員

ただ今より環境政策について質問します。

今に加藤議員の質問と答弁を聞いておりまして、首長（市長）はやはり説明責任が重要だなと思われました。私が質問しました後も もう一人質問されますけども、市長は説明責任をしっかりと果たしていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

私たちの暮らしは快適さを求め便利になりましたが、そのためCO<sub>2</sub>の排出量はどんどん増し、地球温暖化を進めました。そして、多くの被害をもたらす自然災害をあちこちで発生させ、その被害も年々ひどく、悲惨な結果が出ています。また、大量生産・大量消費・大量廃棄という生活は、CO<sub>2</sub>を排出するとともに、ごみも年々増える生活となり、いま全国各地の自治体の財政を圧迫し、またその処理場所にも困っています。

持続可能な循環型社会を創っていくためには、地球的規模で環境政策を進めなければなりません。でないと、地球は持続できなくなり、次世代は大変過酷な地球環境の中で生活していかなければならない時代になってしまいます。そのために、各自治体それぞれに意欲的な環境政策の推進が求められています。

奈良県内では、生駒市の山下市長は選挙のときにマニフェストで「生駒を環境ナンバーワンの自治体に」と掲げ、さまざまな施策を進め、市民の信頼を集めておられます。エコオフィスづくりの削減目標として温室効果ガスを一〇%削減と掲げ、地球温暖化防止としては、電気使用料を平成十一年度比で八%削減とし、公用車の燃料使用料は、平成十一年度比で一五%削減、低公害車の割合を一〇%導入としています。燃料使用料は、平成十一年度比で都市ガス八%の削減、重油・灯油は一五%削減。LPガスも一五%削減としています。そして、循環型社会の構築として、紙類使用量は、A用紙は原則古紙配合率一〇〇%で白色度七〇%とし、A用紙使用量を平成十五年度比で一〇%削減としています。そして、ごみ排出量は平成十五年度比で一五%削減、また健全な水環境として、単位面積当たり水使用料を平成十一年度比で増加させないとしています。

天理市でも思い切った環境政策を進めていかなければなりません。しかし、残念ながら市長の公約には環境問題に関しての積極的な発言はなく、この約5年間、市長の市政に関する発言の中にも、環境政策に対して力が入ったものが見当たりません。市民の皆さんはとても悲しく思っておられます。それに、環境問題はキャッチフレーズだけの中身の無い言葉だけの政策で終わってはならない深刻な問題です。地球の存続に差し迫った問題です。市民の生活や命にかかわってくる問題です。

地方分権の時代、天理市独自の自立した個性を生かした政策が必要です。人口七万人の天理市の市長として、環境問題を正しく認識し、理解し、率先して行動し、真剣に取り組んでいただきたいと思います。持続可能な循環型社会をつくるための環境政策に対する市長の考えをお聞かせください。

## 北田利光議長

南市長。

## 南市長

松井議員の質問にお答えしたいと思います。

環境政策に係る基本的な考えについての御質問と受け止めております。御案内のとおり、この環境問題ということは、地球規模の広がりを持つ大きな重要な課題であり、市民が安心して、そして生活を営む中で重要な課題の一つであることを認識しております。

現在本市では、いきいき百歳天理プランを基本理念として、八項目の施策を推進しておりますが、その中の重点項目の一つであります環境保全と人権のまちづくりを通して、環境政策を推進しているところは御案内のとおりでございます。その中で議員の方は、私のその取り組みがいきいき百歳天理プランの中で非常に弱いのではないかと、そういう叱咤激励の意味の質問でなかったかと思えます。お答えしたいと思います。環境問題というのは一朝一夕にできるものではないです。長い時間、大きな範囲の中で、行政、利用者、市民がそれぞれの日々の生活、活動、行動の中で実践できる取り組みとして、それが天理市ではいきいき百歳天理プランの中の一つの項目に取り上げています。

たとえば、行政への市民共同参画の場として、7月に、ごみ問題については従来市の方で考えるだけではなくて、まちの人たちの声も聞いて、そして協議してもらうためのごみ問題市民円卓会議を設置して、この問題について各種各方面の御意見を承っております。実現可能な目

標に向かってどういう取り組みをしたらいいかということでございます。また、こうした施策の推進に当たりましては、自発的な市民活動とのネットワークも大切でございまして、長期的な観点も踏まえて、目指すべき道を定め、天理市として進むべき道を定め、そしていろんな施策を図ってまいりたいと思います。

一つ補足いたしますならば、先ほどの質問の中にもありました自動車の排ガスあるいは軽量化、温暖化防止ということがございましたが、たとえば議会の方でも公用車の軽量化に取り組んでいただきましたし、それからまた、一般事務部局の方でも軽自動車化を進めています。こうしたことを踏まえて、先ほど御質問にありました環境の分野について、実はいま、ISO14001への取り組みの内部で着手しているところでございます。これで御質問にありましたそういうふうな項目も全部この中に網羅しながら、天理市の環境もまた一層の充実、発展をしていけたらと願っています。以上、お答えといたします。

## 北田利光議長

松井真理子議員。

## 松井真理子議員

ありがとうございました。環境問題は、一朝一夕には進まないから、活動とか実践をして取り組んでいくということですが、私が一般質問の通告をさせていただいたときには、他市先進地と比べるとほとんど進んでいません。二年前にも一般質問しましたが、それからほとんど進んでないという実感があったので質問させていただきました。

ただ、「ISO14001取得に着手している」、これは初めて聞きました。私、これについても何回か質問させていただきましたけども、ちょっとあきらめかけていました。七万人口の市レベルで取得というのはなかなか難しいということが、いろいろあちこちで聞いたりしまして、でも市長のそういう意欲的なお言葉、とてもうれしく思っています。ISO14001、ぜひ取得していただきたいと思います。

2年前の私の一般質問で、環境基本計画策定についての市長の答弁は、「環境関連施策について実効性を高めるため、環境基本法に基づく天理市環境基本計画の策定に向けて、いま市、事業者、市民がそれぞれの立場に応じた公平な役割分担のもとで、自主的に、また積極的な環境施策を進めるため、この計画を策定しようと考えているところでございます」というふうに、「この計画を策定しようと考えているところでございます」という答弁が2年前ありました。期待していたんですが、一向にその動きがありません。どうなっているのでしょうか。市民の皆さんはとても残念に思っておられます。

ただ私は、計画や条例に関しては、コンサル会社に丸投げした絵に描いた餅、税金の無駄遣い、策定したという既成事実の中身の無い抽象的な計画や条例なら、実効性がないので要らないと常々思っています。

私が声を高らかにしております男女共同参画のことにつきましても、男女共同参画条例は、本来なら私としては要望すべきですけれども、私は実施計画の入っている第一期女性プランの実効こそが天理市の男女共同参画社会を実現していくものと確信していましたから、あえて条例制定はうるさく要望しませんでした。環境問題も同じで、地道に天理市にいま必要なことから徐々に実行し、積み上げていくことが大切だと思っています。

自然環境の保全の街路樹に関してですが、私が何度も要望していました街路樹の正しい剪定も少しずつ改善が進み、市民の皆さんも少し安心してくださっています。イチヨウ並木で有名な天理市が、イチヨウやケヤキなどの街路樹を大切にしていないことへの批判も少しずつおさまってきています。今後は街路樹に関して自然保護、景観保護の視点で、どう進められますでしょうか。

また、地球温暖化防止についてですが、ことしの夏、とても寒い日があり、クーラーがきつく、職員の方も震えておられるので、クーラーの温度設定のことについて担当課に聞きました。そしたら、「来客のためにこの温度にしています」という回答でした。6年前の夏、三重県に研修に行ったときに、マニフェストで有名な、当時改革派知事として有名であった北川知事は、目先の来客よりも地球規模で考えなければならない環境問題が大切だと言って、クーラーの設定温度が高く、とても暑い中で汗をかきかき、お話を聞かせていただきました。しかし、とても強い政治姿勢が伺え、研修会参加者は、暑い中でも不快感より納得や感動の方が大きかったのを覚えております。

天理市も目先のことに重点を置くのではなく、将来を見据えた庁内環境を整えてほしいと思

います。

先進地では、環境家計簿の全戸配布が効果を上げています。各家庭で環境家計簿をつければ、おもしろいほど結果が出ます。自分の家庭のCO<sub>2</sub>排出量を毎月記録することにより、CO<sub>2</sub>削減は地球環境にも家計にもメリットがあることが自覚でき、地球温暖化防止が生活に根づくようになります。自治体として、環境家計簿のつけ方の説明会実施や推進家族の表彰など、温暖化防止の意識を高めるためにはより効果があります。市内の学校全体で環境家計簿をつくり、努力した学校を公表している自治体もあります。また、いまの時期、クリスマスのイルミネーションがあちこちにぎやかですが、CO<sub>2</sub>を出すので環境問題を考えている人々はよい評価をしていません。それより、一年のうち一番夜の短い夏至に、一斉にまちの電気を消して二酸化炭素を減らすライトダウンキャンペーン、いわゆるブラックイルミネーションを夜二時間、全国のライトアップ施設や各家庭が毎年参加しています。環境問題を考えた持続可能な社会をつくるには、ライトアップよりライトダウンの方が常識と言えます。

また、公用車を順次エコカーにしていく必要もあります。軽量化ということを先ほどおっしゃいましたが、そういう提案はさせていただいていました。軽量化はどんどん進んでいるのでうれしく思っています。

それから、各家庭や個人で努力できることは、季節に応じた服装のクールビズやウォームビズの推進、外出はなるべく公共交通機関の利用や自転車・徒歩、省エネでエコな家電製品の購入、待機電力の削減のためコンセントをこまめに抜くなど、必要です。また、エコドライブも大切です。エンジブレーキの使用・停車時のアイドリングストップ・急発進をしないなど、また、夏は窓をあけ、冬はセーターを着て、車のエアコンは極力使わないというエコドライブが大切です。そういう啓発を市民にアピールしていかなければなりません。

次にごみ減量についてですが、現在天理市が直面しているごみ減量化は、財政面でも環境面でもとても重要な課題です。ごみが増え続けると、「最終的な被害者は自分たちだ」という自覚を市民の皆様にしてもらうことが大切です。

五條市では、平成六年九月にごみ有料化を導入しましたが、一時減ったものの、他市と同じように四年後の平成十年からもうリバウンドし、現在は以前よりどんどん増加し、缶・瓶や金属類・リサイクルごみを含めた総量も増えていきます。行政が市民へのごみ減量の大切さを啓発しなかった結果です。ごみ有料化は住民負担を増やすだけであり、職員の仕事を増やしただけです。有料化は、結局むだな税金を使い、時間とエネルギーもむだに使ったということを五條市の例は示しています。ごみをいかに減らす生活をするかという市民への啓発がいかに大切かを証明しています。財政赤字のツケを税以外の方法で住民から取るうとするだけの有料化には、ごみ減量の効果はありません。

ごみ減量の一番の方法は、3R運動だと言われています。ごみをできるだけ出さないリデュース、使えるものは繰り返し使うリユース、再び資源として利用するリサイクルの3Rを進めなければなりません。しかし、リサイクルはコスト増で跳ね返ります。リサイクルに力を入れ過ぎた自治体はリサイクル貧乏になり、かえって財政を圧迫しています。だから、リサイクルよりもリデュース・リユースを重点的に進めるべきです。その意味からも、私は市の事業でペットボトルを使用するのは反対です。ごみになる紙コップを使用してはいけないのは当然ですが、リサイクル貧乏になるペットボトルも市の事業では極力使用すべきではありません。おやかんやきゅうす、お湯飲みで湯茶の接待はすべきで、後始末は女性職員にのみ任せるとはならず、男女共同参画であるのがこれからの時代です。環境問題は自分の行動からということで、それぞれ個人がマイカップ持参やマイ水筒持参が市民の合言葉になるようなまちにしていきたいと思っています。

天理市は、分別こそ資源再生の原点ということで十二分別になりましたが、まだまだ徹底されたとは言えません。「人口が少ないとごみ分別は進みやすいが、人口が多いとごみ分別は進めにくい」と言いわけをする行政は怠慢行政と言われています。人口が多い都市でも立派に減量を進めておられます。

人口357万人の横浜市は、ごみの30%減量を目標に、1万回以上の説明会をしました。担当職員が週末や夜間に町内会を訪問し、住民の質問に一つ一つ答えました。分別できていない地域では、集積所に職員が出向き協力を呼びかけました。若者が多いマンションの集積所では、天理市と同じように、どうしてもきちんと分けて出されていません。しかし、分別されていないごみ袋を「収集できません」というシールを張り、その場に残すことで、分別されていないごみの収集は拒否されるということが徹底されると、徐々にそういう場所も分別が進ん

だのです。ある地域では、だれが出したごみかがわかるように印をつけている地域もあるそうです。

人口211万人の名古屋市では、魚の骨も分別しました。大きい骨は可燃ごみ、小骨は資源として堆肥にしています。

分別の先駆けは、人口21万人の沼津市です。当初、説明の映画やスライドを見せても、関心が薄いため居眠りをする人もいましたが、分別収集を始めると、自治会の間で競争意識が働いたそうです。資源ごみを売却した収入を量に応じて各自治会に配分したら、住民の意識づけに役立ったそうです。

ごみ減量はいろいろな方法があると思います。ごみ収集の現場職員が住民に説明し、集積所でごみを出しに来た人に協力を求めるというやり方は、現在たくさんの自治体でも取り入れています。現場の経験を重視し、資源循環型社会の考え方のゼロウエスト宣言をした、ごみゼロ宣言をした上勝町は、「困難は隣近所が支え合って解決する」という考えが生きているまちです。きちんと情報を提供し、腹を割って話すと、全面的な協力が得られたそうです。

また、奈良市・生駒市は学校給食の残さを堆肥化し、市民に提供しています。奈良市は食廃油のバイオディーゼル燃料化も検討しています。

御所市は、十一月十二日、ごみ減量化リサイクル推進の「リサイクルフェスタ ああ～もったいなあ」を実施し、粗大ごみの中から未使用のものや、まだ使えるものを販売しました。ごみ減量の啓発や、各種団体の企業が協力し、環境啓発をしました。イベントはボランティアの力をかりて、ナントと予算ゼロです。環境問題、ごみ減量意識啓発コーナーを設け、模擬店や公園内を電動列車が走るお楽しみイベントもありました。このイベントで物を大切にする意識や環境に対する意識を高められました。

天理市でも市のイベントに使うものは、ごみを出さないものや再使用をできるものを使用すべきです。ごみは各自お持ち帰りくださいというマナーも少しずつ進んではいるものの、まだまだ徹底しているとは言えません。マイバックに関しては、スーパーも努力されてきていますが、市でも包装やレジ袋を断るマイバックの推奨を広報していくべきです。家庭でできる堆肥化の講習会も開催すべきです。

次に環境教育についてですが、天理市の市内全小中学校13校は、平成十五年、十六年度は環境教育実践モデル地域として文部科学省の指定を受け、市内で研究を進められました。その成果と結果は文教民生委員会でお聞きしますが、ここでは市長の環境教育に関するお考えを聞きます。

生駒市は、環境保全計画から環境教育の推進を進めておられます。啓発にとどまらず教育という政策です。広報紙やホームページやポスターに掲載し、街頭やイベントで啓発物品を配っておられます。これは生駒市さんからいただいたんですけども、これはトウモロコシでできた三角コーナーのネットで、焼却しても有害物質を出さない、土の中で分解されるものでできています。それから、これは廃食用の油を原料にしてつくられた石けんです。それから、これはクリアファイルですが、ペットボトルのリサイクルで、写真がたくさん載っていますけど、生駒市さんのいろんな紹介したい部分を写真と説明を入れて、オリジナルのクリアファイルをつくっておられます。

実践的な環境教育として、体験学習の実施、環境フェスティバルの開催、フリーマーケットや人形劇、親子で環境について考えるイベントをし、放置自転車をきれいに修理し、抽選で市民に分けるリサイクル自転車は人気があるそうです。河川クリーンキャンペーンの実施や、役所のバスで年2回出かける親子一日環境教室。市内の花や木々を見学する、花と緑の見学ツアーや施設見学の実施。また、し尿処理施設でつくった肥料を市民に分けるときは長蛇の列ができ、すぐになくなるそうです。それから、生活排水対策出前講座や環境のカレンダーの配布。そして、ごみ収集車の体験として、学校にバッカー車を持ち込んで、子供たちにごみ収集の体験をさせ、ごみ分別収集の大切さや、ごみ収集で苦労することなどを実際に体験して学ばせています。

逗子市は、ごみ収集車に子供たちが環境に関するカラフルなペイントを楽しみ、自分たちが絵をかいた車が市内を回ること、ごみの出し方に愛着を持って出すようになったそうです。

天理市にはすばらしい活動をされている環境団体があります。ぜひ協力を得て、学校教育・公民館の女性学級・高齢者学級・生涯学習などで、出前講座や体験学習などを積極的に取り入れ、環境問題に自覚的な市民を育成することが大切です。奈良県にも申し込めば環境に関するさまざまな分野の出前講座をしてくれます。また、もったいないキャンペーンとして、もった

いないをテーマに、小・中学校の部と高校生以上の部のアイデアコンテストや作文コンテストを実施し、日常生活の中でもったいない精神が根づくように啓発すべきです。

環境によいという視点でお店や商品を選ぶ環境ラベルのついた商品を買うグリーンコンシューマーの育成も急務です。天理市の農産物を使ったエコクッキングの開催やリユースのフリーマーケット、廃食油を使った石けんづくり講座、洋服のリフォーム講座の開催、また環境カレンダーの配布、放置自転車を修理して提供なども市民は喜ばれると思います。また、講座やイベントや市民が集まるところでは、常に最初のあいさつに環境問題のことを少し入れて話をし、市民に啓発することも大切です。

これは視察で行きました新発田市の封筒なんですけれども、再生紙でできているのはアチコチありますけれども、こういうふうの下を切ったら定型封筒として利用できる市の封筒です。そして、裏が、切ったら便箋に使えるんですね。だから、市から配達されてきた輸送物は上のここだけしか住所とかを書いていませんので、あと切って、またそれぞれ個人で使っただけのような、そういう封筒。すごく環境を考えた政策を進めている市だなというふうに尊敬されていると思います。ほかには鳥取県とか奈良中小企業支援センターのも定型にできるような封筒になっています。こういう封筒にしてくださいと何回も言っていますが、なかなか実施されていないので、ぜひ実施していただきたいと思います。

また、鉄が高騰なので売っている自治体があるのに、なぜ天理市はお金を出して処理してもらっているのかという市民の不審の声があります。

天理市を環境都市として、エコシティーとして、全国から、いえ世界から視察にたくさん来られるような、ドイツのフライブルク市のような市にしていきたいです。

以上、環境政策の進捗状況と今後のビジョンについてお聞かせください。

## 北田利光議長

南市長。

## 南市長

松井議員から例によって、あちこちのすばらしい例を列挙していただきありがとうございます。私も以前からお答えしておりますが、その中でまずは天理市の気候、土壌、風土に合ったものを着実に環境面に取り入れていきたいと考えています。まずそういうことでお答えしたいと思います。

その中で、まずごみ問題につきましては、その減量化に向けて、本年四月から家庭ごみの細分化を実施し、さらに本年から設置しましたごみ問題市民円卓会議のこれからの経緯も踏まえながら、地道に環境問題に取り組んでいきたい。そうした中で、たとえば本当に市民の立場から地道に環境問題に取り組んでいただいている環境市民ネットワーク天理の皆さんなどにも、本当に心から感謝しているところでございます。川掃除でも本当に一生懸命やっていただき、ごみ問題についてもよくやっていただいている。行政と、そしてこういう市民活動と、また一般住民の方々と一緒にあったごみの問題について、議論だけではない実践を通してやっていきたいと考えています。

その中で特に三R運動、これはもう議員さん既に御案内、よく御存じのことでございますが、発生の抑制、リデュースという部分について、これは当面の市の大きな方針としてやっていきたい。減量化に向かったの大きな軸としていきたいと考えています。

それから、街路樹のことについての話もございました。景観に配慮した剪定方法、また鳥たちの生態系の問題もあるんですが、これについても街路樹の剪定は市と県の方もこの事業を実施主体でございます。それと、ここでかねてから協議を進め、ことしはどうやら安心しておれる段階になったかと思えます。ただ、これについても議員さんにまたお話ししておきたいんです。市民の中で、イチョウを切ってもらいたいという意見と、イチョウを切らないでほしいと、そういう大きな意見があります。こういうことについても、これからどういう方法でやっていったらいいのかを考えていきたいと思えます。

天理の街路樹がいま、最近非常に寂しくなった、あるいは、その周辺の方々の強い要望もあって、結果、事業主体の方がそういうふうな作業をやった結果です。ですから、いままたそれをもとに戻す。具体的に申しますと、県の方に私の方、市と一緒に同じ方法で進めていただくようにお願いしているところで、これも大方の約束ができ上がっております。

それから、環境教育についてもいろいろございました。これも私の「天理の教育元年を目指す」の中で、いろんなこうしたこともやっぱり取り組んでいきたい。家庭で、学校で、また地

域で、本当の環境についての教育を、あらゆる方法をとらえてやっていきたいと考えております。たとえば、体験学習の充実の一環としての環境教育でございますか、時代を担う子供たち、地域の環境をよくし、自然を大切にすることは、そういう思いをはぐくむことは非常に重要であります。学校教育で、また家庭で、これも家庭も一緒になってもらわないといけないと思えます。そういうことで、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。

それから、先ほど生駒市のペットボトルのことを例にされましたが、実はあのペットボトル、私ちょっと職員に聞きますと、生駒市であれ、どこからかできたペットボトル、また他の方法でやっておられるように聞いております。純粹に私たちがいま天理市でペットボトルをどうこうすると、その例というのはちょっと距離があるのではなからうかという思いがあります。それからもう一つ、廃棄についても実はかなりの経費がかかるんです。経費と環境と同一に論じてはいけませんけれど、そういうことをしたいけれどできないという自治体も随分あるのも事実でございます。そのあたり、またよく勉強していききたいと考えています。

それから、大戸村の封筒の話が出ました。本当によく勉強しておられるなと思いましたが、実は、私なら、もしすると決まったら、封筒裏返し運動をするべきやと思うんです。そのかわり手間がかかります。高い人件費をかけてそれを裏返してのりを張ってやること、そういうこととかかる経費等との兼ね合いもございませぬ。ちょっと話が長くなりますが、若いころつかれた知事さんは、封筒をさらで使うのは庁内では禁止でした。ですが、やっぱりそれにも限界がある。そういうことをやっている、やっぱりそのときの流れの事務に間に合わないということから、いつの間にか奈良県ではその方法を踏襲していません。ちょっと御参考までに申し上げたいと思えます。

それから、地球温暖化対策につきましては、実行計画を策定していこうと、この四月から市の組織内で電気、燃料、コピーの使用等の継続的な改善を図りながら、これへの取り組みをしています。中には、議員が先ほどおっしゃったペーパーの両面を使うとか、こういうことも既に取り組んでいるところでございませぬ。一〇〇%と私も自信ないんですが、かなりの割合でこれが広まっているところでございませぬ。また、市民への啓発につきましても、現在実施しております環境フェアあるいはリバーウォッチング、古川の清掃について、継続的な取り組みの中でまちの人たちに本当に実感してもらえ、あるいは行政がやっているんだという意識じゃなくて、これは天理の教育元年と全く一緒です。家庭の役割、学校の役割、地域の役割、こういうものを実感してもらえ、そういう取り組みに持っていきたいと願っています。

それから、大きくは本市の環境施策は国・県の動向も踏まえながら、また本市の実情、先ほど申しました天理という土地の気候、風土、土壌、こういうものも考えながら、市の総合計画、近く市の総合計画の改定に向かっても着手せんとはいけませぬが、その中で環境基本計画及び環境条例については、前にもこの議会で何人かの方々の質問に答えたと思えますが、その計画との整合性、効率性を十分検討した中で考えていききたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。